

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

5
No.747

P2 特集

「ストップ・ザ・無縁社会」絆つなげる 明日へつながる⑩

孤立を防ぐお互いさまの地域づくり ～見守り活動のススメ～

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉

“出られない”をほっとけない!!

淡路市山田地区「予約型コミュニティバス『ハピバス山田』」の取り組み

P8 兵庫県からつなく被災地支援

P9 地域を駆ける! ワーカー物語

子どもたちが幸せに 暮らせる地域をつくりたい

社会福祉法人基督教日本救霊隊 神戸実業学院 小栗 むつみさん

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション





「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる^⑩ 孤立を防ぐお互いさまの地域づくり ～見守り活動のススメ～

人のつながりが薄れ、孤立している人は、いまや「一人暮らし」や「高齢者」に限らない。同居する家族がいても世帯ごと孤立している場合や、青年・壮年層の引きこもりなど、その層は確実に広がっている。従来のいわゆる「要援護者」に収まらない孤立の問題に対して、私たちは何ができるのか。

この問題に立ち向かおうと、地域住民と福祉専門職、事業者、行政などが協働した見守りが各地で進められている。今月は、孤立を防ぐ「見守り」の考え方と進め方を紹介する。



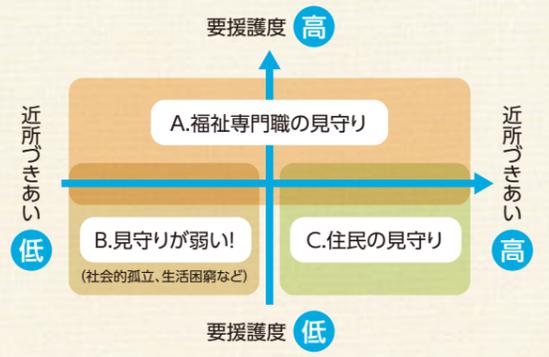
一人暮らしに限らない 見守りの対象

兵庫県A市。親子2人暮らし世帯の母親が亡くなって2カ月間、誰にも気付かれないという出来事があった。担当民生委員は、「息子と同居していた安心感もあり、発見が遅れてしまった」と肩を落とす。

地域によっては、「今さら見守りなんて必要ない」という声があるかもしれないが、A市のようなことはどこで起こっても不思議ではない。老々介護、介護による離職で経済問題も抱える世帯、自宅に引きこもりがちな青年・壮年層、働きながら子育てをして親族のサポートも得られにくい父子母子家庭…。

都市部であろうと町村部であろうと、家族や地域のつながりが希薄になった中、こうした問題が表面化してきている。「無縁」「無援」になる人は、高齢・障害世帯などいわゆる要援護者だけでなく、むしろ制度の対象にならない人々の孤立が問題になっている(図1)。

■図1 見守りが必要な人は?



Bゾーンの近所づきあいが弱い人の見守りが弱いんだね。福祉専門職と住民がもっと連携して、お互いが重なるゾーンを大きくしていかないとね!

お互いを支える役割を担ってきた家族や地域の様相が変化中、社会保障制度をはじめとする公的責任でのセーフティネットづくりが大前提であるが、こうした問題に対して私たちに何ができるのか。カギになるのは、ちょっとした異変に気付ける「近所の見守り力」と、気付いたことを放っておかない「地域住民と福祉専門職、行政の協働力」である。

福祉専門職と 行政の見守り支援

「近所の見守り力」を高めようと、各地で見守り活動が活発に取り組まれている。地域包括支援センターや社協などの福祉専門職は、こうした住民の見守りを基盤に、「見守りネットワーク」づくりを力を入れている。自治体でも、見守り推進員の設置や新聞・郵便・宅配事業者などと協力した見守りに力を注ぐところが増えている。

社専門職、行政が協働で見守りを進める上での大原則は、住民が見守りによって発見した困りごとから福祉専門職と行政が逃げないことだ。

この基本姿勢の上で、福祉専門職の見守りは、「①本人(要援護者)への安否確認」「②住民と協働で行う本人への見守り」「③住民の見守り支援」の3つの役割をもつ(図2)。このうち、その人らしい地域での生活を支援する上で欠かせないのが、②と③である。本人のことに気がかけている民生委員児童委員や近隣住民と連絡を取り合い、

一緒に見守ること、また、次ページで紹介する地域住民の見守りを支援することが福祉専門職の役割である。

では、見守り施策を進める上で行政の役割は何か。もっとも大きな役割は、見守りで発見されたニーズの受け皿づくり、すなわち地域ケアシステムである。このシステムを動かすポイントは、把握されたニーズの解決に向けて連携・協働する場づくり(II会議)である(図3)。また、地域住民の見守りエリアは、お互いの顔が分かる範囲で、せいぜい50世帯くらい。このエリア

での見守りで気付いたことを住民同士が話し合う場、専門職と住民が話し合う場など、重層的なエリア分けも地域ケアシステムでは欠かせない。さらには、エリアを超えて支援するそれぞれの場のつながりを考えていくことも重要である。

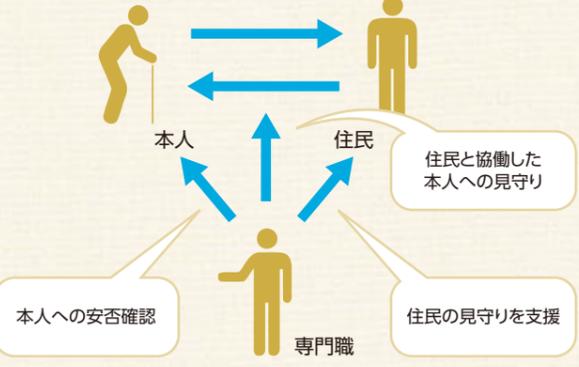
福祉専門職と行政による見守り支援を前提に、地域住民による「見守り活動」をどのように進めればよいか。次ページでは、3ステップで活動の進め方を解説する。

見守り活動 Q&A

Q 見守りで見張り、どう違うの?

A 見守りは、一方的な監視ではありません。お互いが相手に関心を寄せ、ちょっとした困りごとがあった時に支え合える関係をつくるのが「見守り」の目的です。双方向の見守り「合い」の関係づくりがポイントです。

■図2 福祉専門職の見守り方



見守り活動 Q&A

Q 民生委員児童委員、福祉専門職には守秘義務があります。情報共有はどう考えればいいでしょうか。

A 守秘義務がある人から情報を出してもらうのではなく、住民が「情報をつくる」。ご近所同士が知っている情報を出して共有することをすすめましょう。その場合でもプライバシーに配慮した情報の取り扱いルールを決めておきましょう。

■図3 地域ケアシステムとニーズ解決のための5つの場

隣保・近隣など	住民の話し合いの場 (=地域見守り会議)
自治会・町内会など	住民と福祉専門職の話し合いの場 (=ネットワーク会議)
小学校区域など	専門職の話し合いの場 (=個別支援会議、地域ケア会議など)
中学校区域など	行政内での話し合いの場 (=庁内連絡会議など)
旧町域など	代表レベルの話し合いの場 (=代表会議など)
全市町域	



地域で見守りを進めよう
ホップ・ステップ・ジャンプ!

ホップ

見守り活動の基盤づくり

交流・居場所づくりから

ふれあいサロンなど、お互いが知り合って、つながりを生み出す地域の交流・居場所づくりが、見守りの第一歩。県内に、ふれあいサロンは、現在3,032カ所、平均すると小学校区に3.9カ所ある(平成24年度県社協調べ)。

居場所があるから、そこに集う仲



子どもの笑顔でみんながにっこり(兵庫県東市場ふれあいサロン)



「ナイトサロン」には男性がゾクゾク参加!(宝塚市)

間同士の見守りが生まれる。サロンは地域に一つではなく、いろんなタイプの居場所づくりを進めることで、参加する人が増え、孤立しがちな人をつくらぬ地域づくりにつながる。

交流・居場所づくりを地域に広げる役割として重要なのが、地域組織である。自治会福祉部や地区社協、まちづくり協議会など地域によってさまざまだが、留意しなければいけないのは、見守りが必要な人ほど、そうした組織に加入していない場合が多い点である。自治会未加入者への見守りは、地域



自宅の一室を開放した「つどいば 花あかり」(西宮市)

ボランティアと協力して進めることがポイントだ。

ステップ

見守りニーズの発見

福祉マップづくり

見守りが必要な人は、日常生活で、あるいはサロンやボランティア活動などの地域活動の中で、「ちょっと気になる」「一人として発見される。」「ちょっと気になる」から、実際に「見守る」「つながる」「支え合う」関係にするために、多くの地域で取り組まれているのが、「福祉マップづくり」である。地域の白地図を広げ、そこに気になる人や住民が集う居場所、活動のつながりをみんなで書き込み、「見える化」することで、見守りの具体的な手立てが話しやすくなる。

相談ルートづくり

もう一つ、見守りニーズの発見で役立つのが、身近な相談・情報の窓口づくりである。どこの誰に相談できるのか、相談ルートを明確にすることで、ちょっとした困りごとや気になる人の情報が上がりがやすくなる。県内でも、「地域なんでも相談窓口」、「地区ボランティアセンター」の設置、相談先リストの住民

ジャンプ

情報の共有・話し合い

「地域見守り会議」のススメ

見守りが必要な人、気になる人と一緒に「どんな見守り・支え合いがあればいいのか」を話し合うための場が「地域見守り会議」。会議といっても、形式ばる必要はなく、お茶会の延長で気軽に話し合えるのが理想的だ。この会議に福祉専門職が参加し、お互いに気になる人や地域の課題を共有し、一緒に支え方を考えることが、住民と協働した見守り支援につながる。



見守り推進員同士で活発な意見交換!(尼崎市園田南地区「高齢者等見守り安心委員会」)

事例

見守り会議から

認知症高齢者の見守りへ

(宝塚市)

宝塚市内のA地区は、エレベーターのない5階建ての集合住宅群。この地区では、市社協の働きかけで作成した福祉マップがきっかけとなり、自治会役員だけでなく、地区を担当する民生委員児童委員、老人クラブ、市社協と地域包括支援センター職員が集まる見守り会議がはじまった。はじめはお互いが遠慮しながらの発言だったが、顔を合わせる回数が増えるにつれ、少しずつ情報共有が進んできた。

ある時、地域内で徘徊する一人暮らしの認知症高齢者のことが会議で話題になった。話し合いの結果、徘徊を見かけたら自治会長に連絡し、会長を通じて自治会役員が行き先を確認、それでも様子が気になるようなら福祉事業者に応援を要請することに決定。これがきっかけとなり、A地区では、認知症高齢者の見守りと、福祉事業所との連携が進んだ。

目指すのは、孤立のない「お互いさま」の地域づくり

見守りの先に目指したいのは、誰ひとり孤立することのない地域、「お互いさま」で支え合える地域だ。見守りは、このような福祉のまちづくりの基盤になる活動である。つまり、見守りによる「発見力」が、気になる人に声をかけ合う「つながり力」となり、ちょっとした困りごとがあっても、災害などのいざという時にも、支え合う「支え合い



配布など、地域によって工夫されている。



「地域支え合いマップ」づくりではさりげない見守りや地域の人材発見も!(川西市グリーンハイツ地区福祉委員会)



お手製の「福祉おたすけマップ」は地区内に全戸配布!(川西市グリーンハイツ地区福祉委員会)

見守り観が変わる 一歩すすむ!
「見守り活動サポートブック」

(発行:兵庫県社会福祉協議会)



今月号で紹介した「見守り」推進のための考え方と手法を1冊にまとめました。

各章には、県内の実例をベースにした演習問題を掲載しており、職場研修や地域住民との学習会で活用できます。それぞれの地域に合った見守り推進策を見つけるための「サポートブック」として、ぜひご活用ください。

●兵庫県内の市町村協と地域包括支援センターに配布します。

●本会ホームページからもダウンロードできます。

<http://www.hyogo-wel.or.jp/>

力をつくる。さらに、特定の住民だけで取り組むのではなく、できるだけ多くの住民に知らせ、連携・協働しながら解決すること(協働力と自治力)が、孤立をつくらぬ地域づくりである。もちろん、深刻な生活課題を抱える人や関わりを拒否する人への見守りは住民だけで担えるものではない。福祉専門職や福祉分野以外の事業者、行政が地域で起こっている問題から目をそらすず、協働の一歩を踏み出すこと、そのための行政の対応力が必要である。

公共の電車やバスが通っていない地域の移動手段は、全国的に大きな課題となっているんだ。移動手段の確保に困っている1人暮らしのお年寄りや障害のある人にとって、日常生活そのものに関わるだけに、早急な対応が求められているよ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

「ほっとけない」が 支え合いの原動力

話し合いの当初は「もともと乗らないから路線バスが廃止されたのではない」「市が考えるべきではないか」といった戸惑いの声が多く出され、議論は幾度となく行き詰まった。しかし、実態を詳しく把握する必要があるという意見から実施した「山田地区全戸調査」では、「買い物に行けなくて困っている」「作業所に通うための手段がない」「夫の入院の見舞いにもいけない」など切実な声が多く集まり、その声を関係者で何度も確認する中で、「ほっとけない」という思いが取り組みを進める原動力となった。

“出られない”をほっとけない!!

淡路市山田地区「予約型コミュニティバス『ハピバス山田』」の取り組み

住民運営だからこそ 「地域に合ったもの」を

平成24年からは、住民自身によるバス運行の実施に向けて、より多くの関係者の力を結集するため、「山田地区外出のしづらさを地域で考える協議会」を立ち上げた。バスの運行ルートや時間、受付・運転等の役割など、すべてを住民の話し合いで決定し、自分たちに合った形で運営を進めた。平成25年1月～3月の試行運転では、述べ161人の乗車実績があり、利用者からも「家の近くから乗車できるので本当に有難い」と喜びの声が多く寄せられたことから、同年4月より本格運行を始めるに至った。



朝早くからバスの運行ルートについて話し合う協議会メンバー



住民の外出を支えるバス運行

取材を終えて

運行に至るまで「山田に住む人の課題はわれわれの課題」という強い決意のもと、多くの困難を住民同士で力を合わせて乗り越えてきた取り組みです。他から決められたことではなく「バス運行は自分たちで勝ち取ったもの」という誇りが、今後の地域を支える大きな力になることを実感しました。

山田地区外出のしづらさを地域で考える協議会
☎0799-86-1646

同協議会会長の西谷好民さんは「住民の思いに沿ったルート設定など、住民だからこそできることがある。取り組みは始まったばかりだが、我々の活動が過疎地交通のモデルとなり、将来的に市全体の交通を見直すきっかけになれば」と展望を語る。

協議会メンバーも、「今回の取り組みは、住民による力合わせのスタートライン。将来の課題も含め、地域の支え合いを実現していくための基盤となるはず」と今後の取り組みに向けた手応えを感じている。



「ストップ・ザ・無縁社会」
広がれ! 全県キャンペーン
<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

メッセージ

「生きる」ことは「つながる」こと

近所のおっちゃん、おばちゃんの子どもの叱る声が、地域から聞かれなくなって久しいような気がします。かつては、どこでも子どもたちの群れ遊ぶ姿が見られ、そこに大人も面白がって関わっていたものです。地域からそういう様子が消え、人と人との間にコミュニケーションが失われ、何かにつけて相談したり、助け合ったりできるような隣近所の関係を望む人が減ってきたといわれています。その結果、現れてきたのが、児童虐待、孤独死、さらには自殺というような「無縁社会」と呼ばれる現象です。こういう社会不安は、決して他人事ではありません。

兵庫県子ども会連合会では、昭和28年の発足以来、「群れて遊ぶ体験の大切さ」を提唱してきました。

子どもたちは、遊び体験の中で、人との距離感やふるまい方、表情、言葉の選び方などを自然に身につけてきました。つまり、人間が生きていくための最

も重要な「つながり」というものを遊びの中で学んでいたのです。

同時に、そこに関わる大人たちも、「生きる」ことを学んできました。人とのつながりを大切にできたおかげで、共に助け合い、共に生きることができたのです。

近年、地域での役割を担うことを嫌がる人が増加しています。しかし、それは人が「生きる」という上で最も重要な学びを手放すのと同じだと考えられます。

子ども会は、人が生きることの基本的なルールとしての「つながり」を、これからの地域社会を担う子どもたちが身につける場となり、地域の期待に応えられるよう力を尽くしていきたいと考えています。



一般社団法人兵庫県子ども会連合会
理事長 小林 勝弘さん

TOPICS

協賛事業のお知らせ

このたびキャンペーンの協賛事業として、下記の行事が開催されます。各推進団体において、同様の事業がありましたら、本紙面及びホームページで広報しますので、ぜひお知らせください!

東日本大震災応援企画 愛の輪講演会

(主催:ふれあいのまちKOBÉ・愛の輪運動推進委員会、
共催:神戸市社会福祉協議会・神戸市)

日時 平成25年7月23日(火)13:30~15:20

会場 神戸文化ホール 大ホール

参加費 無料

内容 講演「橋幸夫が語る介護・家族・人生観」
講師:橋 幸夫氏(歌手)

申・問 神戸市社会福祉協議会「愛の輪講演会」係
☎078-271-5306 FAX078-271-5365

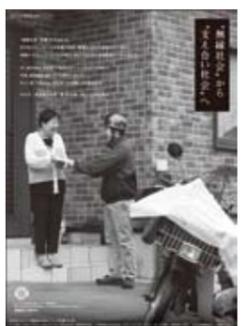
キャンペーンの推進団体が増えました!

このたび、新たに下記の団体より参画の申し出をいただきました。これにより、推進団体は計199団体(4月9日現在)となりました!

新たに参画した団体(順不同)

株式会社神戸新聞事業社、ボランティア・信愛

なお、神戸新聞事業社におかれては、平成25年2月7日に神戸新聞朝刊に掲載されたキャンペーンの広告にあたり、多大なご協力をいただいております。あらためてお礼を申し上げますとともに、当日の紙面を右にご紹介させていただきます!



このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

法人が運営する「ひらのつ子ファミリーステーション」(以下、「ステーション」)※に立ち上げ時から現在に至るまで関わり、施設勤務時とは比較にならないほど多くの地域の方々と関係を築くことができました。ステーション活動の一つである子育てサロンでのある出来事。料理教

印象に残るエピソードは？

保育士資格の取得のための児童養護施設での実習です。ほとんどの学生が保育所に行き、児童養護施設へ行く学生はごくわずかでした。実際に触れ合つて、見た目の印象は明るいのですが、心の奥底にある重苦しい問題の数々…。そのときの印象が目に焼き付き、児童養護施設で働きたいと思い、現在の法人に就職しました。

あなたの原点は？

子どもたちが幸せに暮らせる地域をつくりたい

地域を駆ける！ワーカー物語

現在、法人では児童養護施設と児童館、ステーションの三つの拠点がありませんが、それぞれの機能を活用し、行政や教育機関も巻き込んだ「子ども見守りネットワーク」を地域で構築したいと思っています。

力を入れた活動は？

室を企画し、近所のおばあちゃんにその先生をお願いしました。ステーションの普段の利用者は、子どもたちとそのお母さんがほとんどですが、その日は先生の友人も多数集まり、普段とは違う光景が広がっていました。元々は、「施設の子どもたちを住民に理解してもらいたい」と始めたステーションでしたが、このことをきっかけに、平野地域のあらゆる人が集う拠点として、その活動が広がればと思つようになりました。その後も施設の子どもたちが地域のさまざまな行事に参加するなど、今ではすっかり地域に溶け込んでいます。

福祉のことは「分かち合おう」と「だ」と思っています。分かち合おうと、うれしいことや楽しいことは倍になり、悲しいことは半分になることができます。そして分かち合うためには、人と人が強い絆でつながる必要があります。そのような絆で結ばれた地域になるよう、子どもたちやお母さん、地域の皆さんとの日々の関わりを大切にしたいと思っています。

大切にしていることは？

また、ステーションでは、子どもたちやその母親はもちろんだこと、地域のお年寄りをはじめとした多くの人気が集まる場として利用してもらい、地域のつながりの輪が広がることを目指しています。

サンタクロースを囲んだ楽しいクリスマス会のひと時



社会福祉法人基督教日本救霊隊
神戸実業学院

小栗 むつみさん

Personal History

- 23歳 神戸実業学院に就職
- 51歳 ステーションの担当
- 56歳 平野児童館副館長



取材を終えて

子どもたちの日々の暮らしを支える一方、その子どもたちが安心して暮らせる地域とはどんな地域か。それを追求し続ける小栗さんの姿勢に、自らの取り組みへの熱く固い信念を感じました。

※ひらのつ子ファミリーステーションは、児童養護施設神戸実業学院が設置し、平野地域神戸市兵庫区とともに歩み、ともに暮らし、ともに生きる施設として地域に開放しているステーションで、2006年に開設。子育てサロンや放課後児童預かり、キャンプなど多種多様なプログラムを提供している。

ひょうごボランティアプラザ

1.17から3.11へ
～希望の灯りを東北へつなぐ～

県社協ひょうごボランティアプラザは、3月9日～12日、東日本大震災から2年となる被災地へ17回目のボランティアバスを運行し、総勢47人のボランティアが名取市関上地区および仙台市で開催された追悼イベントの運営支援を行った。

今回のボランティアバスは、「神戸・市民交流会」及び「阪神・淡路大震災 1.17のつどい実行委員会」と協働して実施。バス運行に先立つ3月7日、神戸・東遊園地に灯される「1.17希望の灯り」を分灯し、この「希望の灯り」を東北へつなぐこととなった。

10日に名取市関上地区で開催された「3.11 関上追悼イベント2013」では、神戸より運んだ竹灯籠で描いた「絆」に地元の方々と一緒に火を灯すとともに、震災当日に関上中学校を目指し避難する途中に亡くなられた方々への鎮魂のため、多くのボランティアや現地の方々と一緒に、全国より集められた絵灯籠で「光の道」を作った。



名取市関上で描かれた「絆」

翌11日には、「キャンドルナイト2013」が仙台市勾当台公園で開催された。ここでは市民の思いが書かれた「ゆめコップ」で描いた「かがやけ仙台」と、竹灯籠による「1.17 3.11」の文字を地元ボランティアと作成。

仙台市で描かれた「1.17 3.11」



震災から2年が経ち支援のかたちが変わりつつある今、揺れる炎をじっと見つめる大勢の市民の姿に、阪神・淡路大震災を経験した私たち兵庫県だからこそできる支援や思いを届けることができたのではないかと改めて感じた。

仙台市で描かれた「1.17 3.11」

ひょうごボランティアプラザでは、今年度も「被災地交流励ましボランティア活動助成」を行います。県内のボランティアグループ等による、被災地の仮設住宅等におけるボランティア活動に要する経費の一部として、バス等の借上料を助成します。詳細は本紙12ページをご覧ください。

被災地での要援護者支援活動を報告

3月20日、仙台市内で「震災被災地における要援護者への個別・地域支援の実践的研究報告会」が開催され、宮城県の仮設住宅支援員(サポーター)への研修から見える今後の支援について、兵庫県社協より報告を行った。サポーターの研修は、兵庫県内の社協や在介職員、研究者らが協力して宮城県で実施している。

現在、仮設住宅支援員は、アルコール依存や近隣トラブルなどの支援困難ケースを含めた支援を日々重ねる中で、個別・地域支援のスキルを確実に蓄積している。サポーターの実践や仕組みは、社会福祉の先駆的な実践であり、私たちが学ぶべきことは数多い。今後もお互いの取り組みを交流しながら、それらの発信に努めていく。



個別支援と地域支援を統合した社会福祉援助の方法をやさしく解説



各テキスト(2冊セット4,500円)の注文は、NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター ☎022(727)8730 FAX022(727)8737まで。

本会のホームページ
をリニューアル!

4月より、本会のホームページを全面的にリニューアルしました。県社協2015年計画で掲げた組織基盤強化項目である「情報機能の強化」の一環として、会員や県民の皆さんに必要な情報を分かりやすくお届けできるように、デザイン



スマートフォンやiPadにも対応

を一新しています。また新たに、会員の皆さんのご要望にお応えして、「民間社会福祉事業職員互助会」「民間社会福祉事業員退職共済」ひょうご福祉サービス「総合補償制度」などのページを新設し、必要な情報を容易に得ら

トップページはイラストを使用して、使いやすさと見やすさを向上させました。ぜひブックマークをお願いします!

互助会や退職共済など、本会が実施するさまざまな事業について、事業の手引きや様式をダウンロードできるようにしました!

「あなたのまちの地域福祉活動」のページでは、県内市町社協のホームページへのリンクを掲載するとともに、本紙の「社協ナビ」を転載し、活動内容も紹介しています!

れるよう工夫を行っています。今後は、インターネットを利用するすべての人にとって使いやすいページとなるよう、アクセスの向上を図り、さらなる効果的な情報発信に努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

「おもちゃ王国」に
子どもたちを招待!

3月16日、東条湖おもちゃ王国(加東市)の主催によるチャリティーイベント「おもちゃ王国の休日」が開催された。



ビンゴゲームの商品や屋食は、多くのメーカーから協賛されたもの

このイベントは、企業の社会貢献活動の一環として、阪神・淡路大震災の震災遺児や兵庫県内の母子・父子家庭の児童を無料で招待することから始まったもの。第12回目を数える今回は、県内の児童養護施設や市内などから、過去最高となる682人の児童が集まり、ビンゴゲーム大会や園内の乗り物を楽しんだ。県内の遊園地が年々少なくなる中、晴天の下で児童とスタッフの笑顔が園内にあふれた一日となった。

寄付・寄贈のお礼

このたび、本会等へ以下の寄付・寄贈をいただきました。ここに改めてお礼を申し上げます。

神戸朝日会による寄贈



3月12日、神戸朝日会(神戸、明石、三田、三木、淡路の朝日新聞販売店で構成)より、車椅子30台が兵庫県老人福祉事業協会、兵庫県知的障害者施設協会へ寄贈された。

親切会関西支部による寄付



3月25日、親切会関西支部から県内のセルフヘルプグループに寄付金が贈呈された。寄付を受けたのは、「神戸骨髄献血の和を広げる会(神戸市)」、心身にハンディを持つ子どもやその保護者の「ほへみ会(三田市)」、発達障害児

(者)の親の会たつの子会等の3団体。

ネットトヨタ神戸(株)による寄贈



3月29日、ネットトヨタ神戸株式会社より、ヘッドレスト付車椅子合計300台が寄贈された。150台は県内の老人福祉施設に、150台は神戸市内の知的障害者福祉施設などに贈られた。

災害関連情報

4月13日5時33分、淡路島付近を震源として発生した地震において、本会では震度6弱を観測した島内の社協等に状況を確認するとともに、職員を派遣して現地確認を行いました。今回の地震では、ライフラインも確保されており、安否確認や困りごとへの相談支援は、住民の助け合い活動や地元ボランティアによる対応が行われました。災害は、いつどこで起こるかわかりません。日頃からの備えが求められます。

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

人権文化豊かな兵庫をめざして

公益財団法人 兵庫県人権啓発協会

当協会は平成3年の設立以来、同和問題をはじめさまざまな人権課題の解決に向けて力を注いできました。毎月の情報誌「きずな」の発行のほか、「人権啓発ビデオ」の作成、「ヒューマン・フェスティバル」「人権のつどい」の開催、各種研修や相談事業などを県・市町、関係機関等と連携して行っています。

社会情勢の変化に伴い、人権課題も複雑・多様化しています。子どもや高齢者への虐待、いじめや体罰、職場におけるハラスメント、インターネットを悪用した人権侵害などは後を絶たず、東日本大震災に起因する人権課題も発生しています。人と人とのつながりが薄れる「無縁社会」と呼ばれる状況も大きな問題となっています。



平成24年度人権啓発ビデオ

誰も他者の排除や差別がよくないことは、知識としては理解していますが、自分のこととして正しい理解ができているかという点では、いまだ十分とはいえません。このため、人権尊重を自然に態度や行動として表すことが「文化」として定着している社会をめざして、「人権文化をすすめる県民運動」を展開しています。

これからも県民の皆様へ、人権を身近に感じていただけるよう、人権啓発推進の拠点としての役割をしっかりと果たしてまいりたいと考えています。

ひょうご・ヒューマン
フェスティバル 2013 in たんば

「人権文化をすすめる県民運動」(強調月間)の主要行事として、講演、コンサート、展示・体験・販売コーナーや交流等のさまざまな催しを行います。

日時 平成25年8月3日(土)

会場 丹波の森公苑・柏原住民センター

連絡先

公益財団法人 兵庫県人権啓発協会
〒650-0003
神戸市中央区山本通4-22-15
県立のじぎく会館内
☎078-242-5355 FAX078-242-5360
E-mail info@hyogo-jinken.or.jp
URL http://www.hyogo-jinken.or.jp/

問い合わせ先

兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

被災地交流励ましボランティア活動助成事業

東日本大震災等の被災者を励まし交流するボランティア活動に要する経費の一部を助成します。
対象 兵庫県内の地縁団体、市区町社会福祉協議会等および兵庫県内を活動エリアとするNPO、ボランティアグループ等の各種団体
申請条件 被災地で行うボランティア活動で、参加者が10人以上などの条件を満たすこと
助成対象経費 バス等借上料
助成額 1日1台あたり5万円(定額)、上限20万円
締切り 1期:平成25年7月31日(水)
 2期:平成26年1月31日(金)
⑩ひょうごボランティアプラザ
 TEL078-360-8845
URL <http://www.hyogo-vplaza.jp/>

兵庫県共同募金会 社会福祉関係団体・ボランティア団体・NPO支援事業

対象 兵庫県に所在し、社会福祉事業、更生保護事業を行う団体、または県域・複数市区町域で活動を行うボランティア団体・特定非営利活動法人で1年以上の継続的、組織的活動実績があること
助成額 1団体上限30万円(総額410万円)
締切り 平成25年5月17日(金) 消印有効
⑩社会福祉法人 兵庫県共同募金会
 TEL078-242-4624
URL <http://www.akaihane-hyogo.or.jp/>

みずほ教育福祉財団 第30回 老後を豊かにするボランティア活動資金

高齢者のためのボランティア活動を奨励します。
助成対象 地域社会で高齢者のための活動を行っているボランティアグループ(人数10~50人程度、結成以来の活動実績2年以上)
 ※本助成を過去3年以内に受けたグループ、老人クラブ内での活動グループ、法人格を有する団体は対象外
助成金額 1グループ上限10万円(全国から計150グループ程度を予定)
締切日 平成25年5月24日(金) 消印有効
⑩公益財団法人みずほ教育福祉財団
 TEL03-3596-4532
URL <http://www.mizuho-ewf.or.jp>

大阪阿倍野ロータリークラブ 社会奉仕基金助成金

対象 大阪、京都、兵庫、奈良、和歌山、滋賀県

内の社会奉仕活動をしている団体
助成額 1件上限40万円(合計3団体)
締切り 平成25年5月31日(金)
⑩大阪帝塚山ロータリークラブ
 TEL06-6628-0450
URL <http://tezukayama-rc.cocolog-nifty.com/>

NHK厚生文化事業団 第24回わかば基金

地域に根ざした福祉活動を展開しているボランティアグループやNPO法人を①支援金部門②リサイクルパソコン部門③東日本大震災被災地支援金部門の3つの方法で支援します。
助成額 ①1グループ上限100万円(7件程度)
 ②1グループパソコン3台まで(総数50台)③1グループ上限100万円(5件程度)
締切り 平成25年5月31日(金) 必着
⑩社会福祉法人NHK厚生文化事業団
 TEL03-3476-5955
URL <http://www.npwo.or.jp/>

募集

平成25年度 ひょうごユニバーサル社会づくり賞

支え合う社会に向けた取り組みをしている県内のユニバーサルな活動を募集します。
対象 ユニバーサル社会づくりの見本となる率先した活動を行っている、兵庫県内に在住または活動の拠点を置く個人、団体、企業
締切り 平成25年5月31日(金)
⑩兵庫県健康福祉部障害福祉局障害者支援課ユニバーサル係 TEL078-362-4379
URL <http://www.universal-hyogo.jp/contents/katsudo/shoubu/shoubu.html>

研修・イベント

平成25年度福祉の就職総合フェア 福祉の就職説明会(予定)

平成25年度は下記の日程により開催します。
①第1回福祉の就職総合フェア in HYOGO
 平成25年6月30日(日)
 (神戸国際展示場 3号館)
②福祉の就職説明会AUTUMN in HYOGO(明石会場) 平成25年10月24日(木)
 (明石市立産業交流センター)
(姫路会場) 平成25年10月31日(木)
 (イグレひめじ あいめっせホール)
(尼崎会場) 平成25年11月6日(水)
 (尼崎市総合文化センター アルカイックホールオクト)

③第2回福祉の就職総合フェア in HYOGO
 平成26年3月1日(土)(神戸サンボーホール)
⑩兵庫県福祉人材センター
 TEL078-271-3881
URL <http://www.hyogo-wel.or.jp/>

行事予定

- 5月 14日 経営協 第33回総会・記念講演会
 ◆ANAクラウンプラザホテル神戸
 児童福祉施設新任職員研修
 ◆県社会福祉研修所
- 18日 第22回おーい集まれ!こいのぼりのついで◆県立明石公園西芝生公園
- 20日 社協新任局長・職員研修
 ◆県社会福祉研修所
- 21日 社協新任職員研修◆県社会福祉研修所
- ~22日 介護支援専門員実務研修(後期)
 ◆県社会福祉研修所 他
- 22日 新任リーダー研修(Aコース)
 ◆県立のじぎく会館
- 27日 保育所新任保育士研修(Aコース)
 ◆県社会福祉研修所
- 29日 老人福祉施設新任職員研修(Aコース)◆県社会福祉研修所
- 30日 県社協 第230回理事会
 ◆県福祉センター
 県社協 第177回評議員会
 ◆県福祉センター
- 31日 障害者福祉施設系事業所新任職員研修(Aコース)◆県社会福祉研修所
- 6月 4日~ 介護支援専門員専門研修課程I
 7月10日 ◆県社会福祉研修所 他
- 6月 5日 老人福祉施設新任職員研修(Bコース)◆県社会福祉研修所
- 10日 兵庫県地域包括・在宅介護支援センター協議会総会◆県民会館
- 12日 老人福祉施設新任職員研修(Cコース)◆県社会福祉研修所
- 13~14日 社会福祉援助基礎研修(Aコース)
 ◆県社会福祉研修所
- 21日 障害者福祉施設系事業所新任職員研修(Bコース)◆県社会福祉研修所
- 24日 保育所新任保育士研修(Bコース)
 ◆県社会福祉研修所
- 26日 新任リーダー研修(Bコース)◆県社会福祉研修所

~安心してボランティア活動をするために~ ボランティア・市民活動災害共済のご案内



年間掛金
1名につき
500円

傷害給付

ボランティア活動中の事故によるケガの補償
 (通院1日4,400円・入院1日8,400円)

賠償責任給付

ボランティア活動中の事故により第三者の身体または財物に対する損害を与えた際の補償(5億円限度)

死亡見舞金

傷害給付の対象とならない事由で亡くなった際に給付(10万円)

お問い合わせ・加入申し込み先/最寄りの市区町社会福祉協議会のボランティアセンター
 実施・運営主体/兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部 TEL078-242-4634 FAX078-242-0297
 取扱代理店/株式会社 兵庫福祉保険サービス TEL078-735-0166 FAX078-735-1890
 引受保険会社/三井住友海上火災保険株式会社 TEL078-331-8502

※所定の申込書と掛金を受付した翌日から、平成26年3月31日までが加入期間となります。 ※平成25年度補償内容です。